

公共施設等総合管理計画策定有識者会議

第 1 回会議録概要

| | |
|----------------|---|
| 会 議 名 | 公共施設等総合管理計画策定有識者会議 |
| 開 催 日 時 | 平成 28 年 3 月 17 日（木） 14 : 00 ~ 15 : 30 |
| 開 催 場 所 | 一宮市役所 本庁舎 14 階 大会議室 |
| 出 席 委 員 | 秀島栄三、鶴田佳子、丹羽正子、竹山聡、二俣勝美、森律子 計 6 名 |
| 欠 席 委 員 | 加藤寛之 |
| 事 務 局 | 熊沢企画部長、小島企画次長、服部企画政策課長、杉浦企画政策課副主監、高田同課主査、野村同課主任 |
| 委 託 事 業 者 | 中央コンサルタンツ 竹内禎、東山泰治 |
| 審議会モニター | 4 名 |
| 会 議 次 第 | 1. あいさつ 2. 会長・副会長選任 3. 協議事項 (1) 公共施設等の現況及び将来の見通し (2) 公共施設等の総合的かつ計画的な管理に関する基本方針 4. その他 |
| 会 議 内 容 | |
| 事務局 (企画部長) | 1. あいさつ 2. 会長・副会長選任 委員及び事務局の自己紹介の後、一宮市公共施設等総合管理計画策定有識者会議設置要綱第 5 条第 1 項の規定に基づき、委員の互選により、会長に秀島委員、副会長に鶴田委員を選出 3. 協議事項 (1) 公共施設等の現況及び将来の見通し 事務局より説明。 【質疑等なし】 (2) 公共施設等の総合的かつ計画的な管理に関する基本方針 |

事務局より説明。

会長

事務局から公共施設等の総合的かつ計画的な管理に関する基本方針について、説明がありました。ご意見・ご質問等がありましたら、お願いいたします。

委員

現状を聞かせてください。いま、多くの情報の説明がありましたが、例えば資料 1-18 で、先程から説明があったように、ここに施設、道路に長寿命化がいる、見直しがいるということで、その積算根拠とかも書いてありますが、この 1-18 を作るにあたって、公共建築物のそれぞれの試算をしているわけですが、どのように試算しているのですか、というのは、この数字が出されているわけですが、個別の計画とか色々話を進めていく時に、この計画と個別にやった時の計画で、その金額がずれてこないかということがあると思うのですが、どのように根拠を出しているのですか。

委託業者

試算についての説明をさせていただきますと、総務省の試算の考え方は、建物の分類ごとに 1 m²あたりの単価が決められています。ですから、積算というレベルよりもかなり大雑把なレベルでの試算になっています。といいますのは、一宮市の全体の施設で、372 施設、1383 棟ありますので、1つ1つ積算をしては本当にいくらかかるかというのはなかなか出てきませんので、それを個別でやると実は少なからずずれると思いますが、全体としての総量として試算するのであれば、そういった総務省の提唱された 1 m²あたりの単価ということであれば、全体の大枠を決めるにあたっては、大きな違いが出ないのではないかとこのところでは。

委員

例えば、約 9.8%の削減、10 万 m²の削減とありますが、この削減であまり出てこなかった統廃合も一応資料には書いてありますが、例えば小学校の統廃合とか、学校教育施設が一番延床面積が大きいものですから、その統廃合をやると、これを達成してしまう可能性が出てこないですか。

事務局

小中学校 1 か所、2 か所では難しいと思います。相当数が実現すればできるかもしれませんが、小中学校以外でも縮小はしていかないといけないかと考えています。

委員

耐用年数の60年を超えているものが約3%あると書いてありますが、今の初期の段階ではそれをどのような計画で考えているのですか。計画の見直しとかどういうふう定期的にやっていくお考えなのかお聞かせいただきたいのですが。

事務局

いま議論していただいているのは、市全体の基本方針ですので、個別の施設については、基本方針が決まった後で、学校であるとか、保育園であるとか、高齢者福祉施設であるとか、そういった施設類型ごとにどうしていくのかを、この総合管理計画の中でも方針を決めていきます。

委員

いま保育園が待機児童ゼロではあるけれども、地域によっては足りないところもあるということで、地域によっては増やさないといけないところもありますし、この計画では、新しいものは含めていないという説明もあるので、削減の難しさというのは非常によく分かりました。あと具体的なこの会議の進め方というか、期間の設け方はどういうふう考えているのですか。1年に何回やるとか、どういうふうなタイミングでやっていくのかだけ、最後教えてください。

事務局

大まかに2つに分けて、市全体の基本方針と施設類型別の方針とそれぞれ1回ずつを想定しています。最後に施設類型ごとの計画ができれば、計画全体も同じですので、そのタイミングで2回目の会議を開催し、その後でパブリックコメントを行います。その中で出てきた意見によっては、再度という予定をしております。ですので、多くて3回ということです。

委員

普通会計と企業会計とありますが、企業会計というものは、市民の皆さんから何らかの支援をいただいているということで、独立採算で運営していくことだと思っておりますが、例えば、公共建築物であれば病院であったり、インフラであれば上下水道施設が該当すると思いますが、1-11のところ歳入・歳出があって、これは普通会計だけなのですけども、普通建設事業費もここに入るといえることですか。

事務局

普通会計の普通建設事業費はここに入っていて、企業会計分は入っていないです。

| | |
|-----|---|
| 委員 | <p>通常、財政的なことを考える時に、基本的に、市民の生活を守るゴミの収集とか福祉関係とかそういうものはどんなに財源が減っても絶対減らせられない経費のベースがあって、それ以外の投資的経費の部分で縮減していくということだと思のですが、1-11の歳出のグラフでいうと、どの色の部分が絶対減らせられない経費で、どの色の部分が投資的経費なのかがよくわからないのですが、グラフで言う投資的経費はどの色を見ればよいのですか。例えば、人件費の中には投資的経費もあれば、経常的経費も入っているのですか。</p> |
| 事務局 | <p>投資的経費にかかる人件費は、全て投資的経費に入っています。</p> |
| 委員 | <p>ということは、普通建設事業費に入っているということですか。</p> |
| 事務局 | <p>はい、そうです。</p> |
| 委員 | <p>その区分けが重要なので、その記述がわかるようにしてもらいたいです。</p> |
| 会長 | <p>市費がなかなか減らせなくて、その残りを限られているところで補っているという資料があると、非常に分かりやすいかと思います。</p> |
| 事務局 | <p>はい。1-12で、上のグラフが普通建設事業費の内訳になっているのですが、この中で、用地取得費であったり、人件費も普通建設事業費の内容として入っています。</p> |
| 委員 | <p>1-11の歳出のグラフで、普通建設事業費以外はもう減らせられない経常的経費ということになりますか。</p> |
| 事務局 | <p>はい。あわせて物件費も減らしています。</p> |
| 委員 | <p>経常的経費以外はすべて縮減対象になるのではないかと考えていますが、今は減らすものを全部インフラの中の建築物だけに背負わせているところがあるのですが、本当にそれでよいのかと考えています。例えば、公共建築物についても、普通会計と企業会計と合算してありますが、企業会計分はその中で賄っていくということと考えたら、普</p> |

通会計でなくてもいいのかなとか、試算の根拠としたときに、本当に減らせられる部分の支出項目を全部充当したら、このくらいという割合を出しているのか疑問が残りましたが、もう少しきちんと計算されていると思うのですが、いかがでしょうか。

委託業者

1-11のところだと、物件費と普通建設事業費が経常経費以外の分であるということで想定しています。逆に言えば、本当は今よりも福祉的な部分で支出が増える可能性は、人口にあわせて増やしています。ただ、行革で人件費を減らすとか、いろいろな行革の取り組みはやってこられていると思いますので、本当は行革の取り組みとのミックスになるともっと現実的になるかもしれませんが、公共施設等総合管理計画ということで考えていますので、公共施設に係る部分の試算をしておりますが、それ以外のもっと行政として効率化できるのではないかとこの部分については、今までやられてきている行革の取組の延長で考えられていくべきものではないかと解釈をしております、建設に関する部分では変動できる部分はできるだけ変動させて縮減させるということで試算を行っているところです。

委員

今後資料を作っていく上では、投資的経費か経常的経費かという説明をされた方が、市民の方もわかりやすいのではないかと感想として思いました。

もうひとつ別の話ですが、19億円のインフラ財源不足額ですけど、インフラ資産で公共下水道はまだこれからつくられていくということですが、その数字は入っているのですか。

委託業者

入っていません。ですので、新しくつくる下水道が入っていないので、818億円浮くという形になってはいますが、入れると例えばトントンとかいう話になってくると思います。

委員

インフラ資産の普通会計で入ってくるのは道路ですか。インフラ資産の普通会計に入っているのは具体的に何になりますか。

委託業者

1-4のところという、上水道、下水道を除いた全てです。

委員

公共建築も載っているのですか。

| | |
|------|--|
| 委託業者 | <p>公共建築は建築として挙げておりますので、インフラ資産として挙げているものは、道路、河川、公園、農業施設、消防防災施設、供給処理施設、その他ということで、駐車場や斎場といったものを計上しております。</p> |
| 委員 | <p>わかりました。</p> |
| 会長 | <p>はい、ありがとうございました。他にいかがでしょうか。</p> |
| 委員 | <p>1-6の市民アンケート調査の分析結果ですが、無作為抽出されて実際の回収率が40%ということですが、その中で(1)を読むと、6割の人が公共施設の現状に関心があると評価をされているという発言だったのですが、実際には4割回収なので、回答している人は関心がある人なので、残りの6割の人は関心がないのではないかと、もちろん想像ですが、6割あったから6割でたくさんあるというのは、ちょっと危険かと思ひまして、関心がある人が比較的評価されていることを考えると、そのままこの数字を鵜呑みにするのは、回収率4割で半分をきっているのではどうかと思います。ただ、色々な項目についてこういうふうにいる人が何割いるのか、あるいは地域的にこの地域の人はいくつに思っているというような、中の数字で把握するというのは、十分にアンケートとしてできると思いますが、今の(1)のような、全体の中で数値を評価するというのは、やはり4割回答ということを入られて、今後色々な資料を作る際に気を付けられたほうがいいのではないかと感じました。</p> |
| 事務局 | <p>ありがとうございました。</p> |
| 会長 | <p>アンケートで公共施設の統廃合について、いざ自分の小学校が対象になったら厳しい意見が出るような気がしますね。先程委員の方から小中学校を統廃合すれば、9.8%は達成出来るのではないかと意見がありましたが、本当にその問題が来た時に皆さんが納得されるかどうか、どうでしょうか。</p> |
| 委員 | <p>先程の話は、例えばの話で、10万㎡縮減は難しい問題だと思います。しかも、これから新しい施設もできるかもしれない中で、廃止していかないと達成できない数字だろうと思います。</p> |

会長

この公共施設等総合管理計画で9.8%縮減と宣言しても、そのあとが、総論賛成各論反対で、この計画でもっと工夫して、それがどれだけ意味のあるものになるのかというのを住民の皆さんにわかってもらう努力を計画の中で考えていくことになるかもしれないですね。

委員

どういう施設が必要なのかというのは、個別に計画するとき、間違いなく出て来る問題だと思います。公民館とか、その施設の利用度であったり、稼働率であったり、正確に出しながら、その施設は必要なかどうか、その地域の人とよく相談しながら、廃止するときは絶対反対がでますから、慎重に計画を練って考えていかないと、納得していただけないと思います。

委員

アンケートを基にしないと色々なものがないということもあるのですが、大変関心がある、少し関心がある、その真ん中もあるのですよね。全く関心がないとか、何段階かあると思うのですけども、アンケートに答える時と、いざ自分の所に直接関わってくる内容になると、少しこれとは外れるのではないかと考えています。

それから、いま利用率が低い所も確かにあると思います。それはこちらのほうで色々なものをキャッチされていると思いますが、どういう理由で利用率が低いのか、こういうふうに改善してくれたら使い易いのにとということも分かっているのかということも、公表ではないにしても検討しながら、住民の皆さんに納得していただく材料というものはきめ細かくしていく必要があるのではないですか。特に子どもを持っている子育て中のお母さん、その辺のところはしっかり声を挙げる人たちもいますけど、声を挙げるところに至っていないお母さんたちもあるかなと思いますので、それぞれのところできめ細かい計画と同時に、今どうなのか、ただ使われていないとか使いにくいとか、データとしては大切ですけども、なぜ使われていないのかという原因、理由なども必要ではないのかなと思います。

会長

ありがとうございます。9.8%縮減という数量的な話だけではなく、サービスの質的なこともこの計画の中で、もっと掘り下げるべきことがあればそうしたいと思います。

委員

資料をいただいたのですが、ぱっと見てあまり知らない部分と

ということもあって、こんなふうなのかと寂しい気持ちになったのですが、私のような感じの市民の方は多いと思うのですね。市民の方に我慢を強いるというか、ある程度妥協してもらわないといけない話になってくると思うので、皆さんにもっと情報を広く詳しく、説明を十分にさせていただきたいと思いました。

会長

事務局に聞きたいのですが、今のところどうやって住民の方に知らせるか、伝えるかというのは、何か方法はお考えですか。これからまた議論する機会があると思うのですが、いかがですか。

事務局

いまご提案したのは基本方針です。これはあくまで需要とかそういうところに根拠を求めているのではなく、今後40年間の財政運営を安定的にやっていくためにはどのあたりまで抑えないといけないのかという、そういう話で目標を設定させていただきました。ですので、どこが使われていてどこが使われていないかというのは、ここから先、第2回目の時に話し合われるであろう類型別の計画の時にもう少し減らす目標を実現するためには何をやっていくのかということを示していくようなそういうものが出てくるのかなと思います。さらに、この計画とは別に施設ごとの計画というのも私たちは推奨して進めていかないと実行性がないのかなと思っておりまして、そこで具体的な議論ができるのかなと思っております。今回は計画をつくるまでの話ですが、そこから先も当然管理運営をやっていかなければならないと思いますので、その中でどういう周知をしていくのか、どういうことをお示ししていくのかということを経験して積極的に発信していきたいと考えております。

会長

基本的には今後議論していきたいと思います。

委員

9.8%という数字が出ると、結構皆さん敏感で、今お話があったみたいに、今後具体的な話になってくると、思ったより出来るかもしれないし、出来ないかもしれないし、あと私が気になっているのは、公共建築でインフラ資産を賄うということですが、本当にそれでいいのかと思っていて、例えば、公園の維持管理の金額をもう少し少なくする方法もあったりすると思います。そうすればインフラはインフラの中でやっていった方がわかりやすいですし、住民への説明もしやすいですし、納得いただけるようにしていかないと、9.8%縮減という数字は

結構動くかもしれないので、財政的には目安をしておかないといけないということもあると思うのですが、1-19の四角の中に、小さく数値は変動するとありますが、思い切って±10%の変動があるぐらいのほうがいいのではないかと考えていて、9.8という数字が独り歩きして、それに合わせるというのではなくて、個々の施設で努力してみてもやってみたら、10万㎡が11万㎡になるかもしれないし、ひょっとしたら9万㎡を割るかもしれませんが、その残った1万㎡分をインフラのほうで減らすとか、そういうことがあるかもしれないと思います。

それから、他の自治体のケースのことで参考までに話しますが、「縮減」という言葉ですが、財政的な規模は減らすのですが、今すごく使いにくい施設があったりして、不便なところにあって使いにくいとか、駅のそばにあった方が使いやすいとか、不便だったり使いにくいものを逆に統合したり、便利な場所に集めたりして使いやすいような、減らすのだけど充実するというところで「縮充」という言葉を使っている自治体もあります。そういう考えでいけば、予算は減っていくのだけでも、中身は良くなるというようなお話ができる内容の計画にしていけば、住民との合意も取りやすくなるのではないかと思います。やはり小学校がなくなるのが皆さん一番寂しがられますが、地域の方がずっと通ってみえて一番気持ちの入る愛着の持てる所なので、それが全部なくなってしまうと抛り所がなくなってしまうので、例えば、小学校の敷地は半分になるかもしれないけど、残った所に地域の人たちがずっと寄れる施設であったり、子どもが集まる場所だったり、そういったものをつくっていけば、いわゆる「縮充」という話になるのかなと思います。そういうことを少し頭の片隅に入れられた方が、幸せな気持ちになれるというか、予算は減るけど夢は減らないような計画になったらいいなと思います。

会長

何かを減らすだけではない、建設的なアイデアとかいろんな事例とか、次回ご提示いただけると、議論がさらに前に進むのではないのでしょうか。

委員

福祉という分野も、今まではどちらかというと、子どもは子ども、高齢者は高齢者というように、バブルの時代などは財政も豊かで、施設もつくってきて、いまそれがだんだん難しくなってきたときに、財政的に厳しい所で、高齢者が多くて、物の数が少なかった地域というのは、数字をあまり出さないで工夫をするという形を取って、垣根を

とって運用していくと、住民が全体で関われると言いますか、そういうような所もあります。

また、一宮市、尾西市、木曾川町が合併しましたが、それぞれのまちで、自分たちのというようなものが多少あるのではないかと思うのですね。新一宮市ということになると、市役所を中心に大きな図書館も駅の近くで便利になり、それと同時に今まで尾西や木曾川で持っていたものも上手に運営をしていると思いますが、もう少しうまくなったらもっといいのになあと思います。例えば、旧尾西市の図書館が比較的小さいですがなじみの図書館として、中央図書館と連携していくと、市も住民も有機的にやっていけるのではないかなと思います。縮減ということになると、どうしても自分のところがなくなってしまうのではないかということにならないような雰囲気作りも必要かなと思います。

会長

そういうところは減らしていくということになるかもしれないです。他にいかがでしょうか。特に無いようでしたら、これで議題を終了したいと思います。その他について、事務局からお願いします。

事務局

4. その他 説明

事務局より今後のスケジュールを説明。

会長

熱心にご審議いただきましてありがとうございました。では事務局にお返しします。

事務局（課長）

お忙しい中ご参加いただきまして、本日はどうもありがとうございました。今日色々ご意見を頂戴いたしまして、おそらく今日いただいた意見は、施設類型ごとの計画であったり、個別の計画であったり、サービスの質であったり、そういったものを議論するのに大切になってくるのではないかと考えておりまして、十分にかみしめて次回に臨みたいと思いますので、またよろしく願いいたします。

これをもちまして本日は閉会させていただきますので、どうもありがとうございました。

会議終了（15：30）

